

- ◆企画名 日本ピア・サポート学会第18回総会・研究大会 ピア・サポートの原点を求めて—よさこいスピリットを生かして—
- 日 程 2019年9月15日(日)～9月16日(月)
- 場 所 高知工科大学永国寺キャンパス
- 参加者数 4名(ピア・サポーター3名、研修生1名)
- 目 的

- ・ピア・サポート学会への参加を通して、全国のピア・サポーターと交流する。
- ・今後のピア・サポート活動をする上でのヒントとするために、他大学の活動状況を知る。
- ・ピア・サポート活動の原点を再確認し、今後のピア・サポート活動の発展の方向性を考える。

内 容

【1日目】

- ・ワークショップ 第6部会ピア・カフェ<学生交流企画>に参加
- ・開会行事・大会趣旨説明「土佐の教育改革でのピア・サポート推進事業とその後①」
- ・研究・実践発表(分科会) 全部で6つの分科会に参加
- ・情報交換会(懇親会)

【2日目】

- ・総会
- ・大会企画シンポジウム「土佐の教育改革でのピア・サポート推進事業とその後②」



効 果

- ・ピア・カフェで、他大学のピア・サポート活動をする上での悩みを知ることができた。それはモチベーションの保持や、知名度の低さゆえに参加者が集まらないなど、関西大学のピア・コミュニティが抱える悩みと同じものもあった。
- ・悩みの共有にとどまらず、オープンキャンパスなどで高校生相手に広報することで、新入生の中での知名度を上げるなど、具体的な解決策を他大学から提案してもらうことができた。
- ・ピア・サポート活動がこういった経緯で日本に広まり実施されてきたのかを知ることで、ピア・サポート活動の方針について理解が深まった。

改 善 点

- ・具体的な活動について尋ねられた時に、自分の所属しているコミュニティについては答えることができたが、他のコミュニティについては大雑把にしか説明できなかったため、すべてのコミュニティの活動を詳しく知る必要がある。
- ・ピア・カフェの時に、関西大学のピア・サポート活動の悩みについての解決策を提案してもらったものの、こちらから他大学の悩みに対する解決策を提案してあげられなかった。ピア・サポート活動を積極的に行って、経験を重ねる必要があると感じた。

感 想

- ・学会ということもあり、具体的な活動内容の報告よりもピア・サポート活動による成長結果の報告の場であると感じた。また、発表の多くは小学校や中学校でのピア・サポート活動であった。そのため参加している大学生も少なかった。
- ・ある大学では、大学からの助成があまり出ないため、学生の高知までの移動費の負担が大きく参加できなかったと仰っていた。日本全国からそれなりに行きやすい関西大学が中心となって他大学交流の場を設けることを考えたい。